北方建築総合研究所 NEWS LETTER					
北方かわらばん					
Mail Magazine VOL.56 2014/4/24					
「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所(旧・北海道立北方建築総合研究所)が発行しているメールマガジンです。					
このメールが不要な方は、お手数ですが【管理者からのお知らせ】に掲載しているメールアドレスにご連絡ください。このメールアドレスは配信専用のため返信できませんのでご了承ください。					
※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。					
====================================					
第56号の内容はこちらです。					
■ご挨拶 □建築研究本部長挨拶					
■イベントのお知らせ □平成26年北方建築総合研究所調査研究発表会を開催します。					
■研究紹介 「道内自治体の住替え推進施策支援に関する研究 ーその 1 障がい者の自立生活のための住要求ー」					
■最近の研究所の動き □道総研セミナー in 十勝に参加しました。 □人事情報 □3月の業務報告					
====================================					

■【建築研究本部長挨拶】

4月1日付けで北総研に異動になりました石塚です。よろしくお願いします。 北総研が旭川に移転して早12年。そして「北海道立総合研究機構」の一員と して新たな船出をしてから5年目を迎えました。これまでとの大きな変化とし て、法人本部と6研究本部総勢1100人が、それぞれの専門性を活かし、力 を結集して強力に取組を進めていくことが可能となりました。

例えば今年度最終年度となる戦略研究「新たな住まいと森林資源循環による持続可能な地域の形成」は、北海道の豊富な森林資源の住分野での利用拡大を図るため、分野間の連携を強め技術開発を行い森林資源循環を目指すものです。 川上側の木材需給や加工システム、川下側の使い手としての設計手法や住宅産業の持続可能なビジネスモデルの構築などにより、淀みない大きな流れを創り地域や産業を支える本道経済の活性化につながるものと期待しています。

北総研は、住まい・まちづくりなど道民の方々の暮らしに直接関わる研究開発を行っていること、ハード・ソフト併せた総合力を発揮出来ることなどから、 戦略研究などにおいても他の研究分野を補い中心的役割を果たしています。 人口減少・少子高齢社会に向かう中で、今後、持続可能な地域社会の構築に向けて、環境負荷低減や地域資源の活用、安全で快適な建築・まちづくりに関する研究開発を着実に進めていきたいと考えています。

これからも、道民の皆さまの暮らしを豊かにする研究姿勢を大切にし、研究環境を活性化するとともに、研究成果の積極的なPRに取り組んでまいりますので皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 建築研究本部長 北方建築総合研究所長 石塚 弘

■【平成26年北方建築総合研究所調査研究発表会を開催します。】

日 時: 平成26年5月20日(火) 10:00~16:30 会 場: 旭川市大雪クリスタルホール(旭川市神楽3条7丁目)

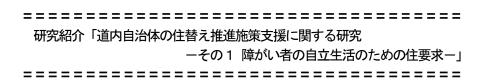
北総研が取り組む住まいや建築・まちづくりの研究について、平成25年度に 終了した22課題の研究成果を発表します。

今年は「材料性能と構造」「防災とまちづくり」「地域・住まいづくり」「省 エネルギー技術」の4つのセッションで行います。

また、「北総研における戦略研究の取り組み」と題して特別報告を行います。 当日は当所の研究員が直接技術相談をお受けする相談窓口も設置しますので、 多くの皆様のご参加をお待ちしております。 最新の情報・案内チラシ・参加申込書については、次のホームページからダウンロードできます。

http://www.nrb.hro.or.jp/140520happyoukai.html

(企画課 酒井)



障害者自立支援法により、障がい者が地域で自立して暮らせる環境づくりが求められています。身体障がい者のためのバリアフリーはある程度普及してきていますが、知的障がい者や精神障がい者のための住環境整備については、まだ研究も普及も進んでいない状況です。そこで、本研究では今後の障がい者のための住環境整備を考える上での基礎資料とするために、精神・知的障がい者の住要求を明らかにしました。

その結果、(1)精神・知的障がい者は親元から離れて自立したいと考えていること、(2)プライバシーの高い住まいを求めていること、(3)障がい者同士の共同生活だけでなく、一般の賃貸住宅における健常者と同様の生活も求めていること、(4)精神障がい者と知的障がい者により求める住宅やサービスが異なること、(5)本人と保護者にも意向の違いがあることなどが明らかになりました。

今後地域において精神・知的障がい者のための居住の場をつくる際は、本人と 保護者の意向をそれぞれ把握し、障がいに応じてサービスと住宅を連動させて 供給することが求められます。

市町村で精神・知的障がい者の住宅整備を検討する際にはご相談ください。

(居住科学G 馬場)

■【道総研セミナー in 十勝に参加しました】

平成26年3月18日(火)に、帯広市のとかちプラザにおいて、道総研主催の「帯広市民大学連携講座 第3回道総研セミナー in 十勝」が開催され 北総研の研究職員が講師として参加しました。

セミナーでは、北総研が十勝総合振興局と連携して取り組んだ地域材利用の促進に向けた活動を紹介しながら、十勝で地域木材をよりスムーズに利用できる

ようになるための方策を参加者とともに考えました。 当日は18時30分から20時30分までと遅い時間帯での開催でしたが、 30名の方に参加いただきました。

参加者は、自分たちの住んでいる地域での取り組みの話ということで、大変熱心に講師の説明に聞き入り、また数多くの質問等も寄せられました。 北総研の研究活動について理解していただける良い機会になったのではないか と思います。

(企画課 酒井)

■人事情報

◆3月31日付け退職

山田 博人(H25年度建築研究本部長兼北方建築総合研究所長)

福島 明(H25年度副所長)

大柳 佳紀(H25年度企画調整部長)

【再雇用期間満了】

南 慎一(居住科学部居住科学G専門研究員)

吉野 利幸(環境科学部構法材料G専門研究員)

◆4月1日付け転出

板谷 悟(H25年度総務部長)

武田 充光 (H25年度構造計算適合性判定センター構造判定部長)

細谷 俊人(H25年度企画調整部企画課長)

片山 信寛(H25年度総務部総務課主査(総務))

梅田 竜也(H25年度企画調整部企画課企画G主査(企画))

林 昌宏(H 2 5年度居住科学部居住科学G主査(住計画))

◆4月1日付け転入

石塚 弘(建築研究本部長兼北方建築総合研究所長)

中川 国義(総務部長)

倉増 英樹 (構造計算適合性判定センター構造判定部長)

櫻田 秀幸(総務部性能評価課長)

清水 浩史(企画調整部企画課長)

田邉 竜史(総務部総務課主査(総務))

戸松 誠(居住科学部居住科学G主査(地域計画))

◆新規採用

【平成25年12月1日付け】

宮内 淳一 (構造計算適合性判定センター →

平成26年4月1日より 環境科学部構法材料G)

【平成26年4月1日付け】

中村 暢(環境科学部構法材料G)

◆4月1日付け所内の動き

鈴木 大隆(環境科学部長 → 副所長)

十河 哲也 (総務部総務課性能評価課長 → 企画調整部長)

松村 博文(居住科学部居住科学G研究主幹 → 環境科学部長)

福井 淳一(居住科学部居住科学G主査(地域計画)

→ 居住科学部居住科学G研究主幹)

北垣 博樹(企画調整部企画G

→ 企画調整部企画課企画G主査(企画))

北谷 幸恵(環境科学部環境G

→ 企画調整部企画課企画G主査(指導支援))

高倉 政寛(環境科学部環境G主査(環境)

→ 居住科学部居住科学G主査(住計画))

竹内 慎一(居住科学部居住科学G

→ 居住科学部居住科学G主査(地域防災))

糸毛 治(環境科学部構法材料G → 環境科学部環境G主査(環境))

渡邊 佳純(企画調整部企画課企画G → 総務部性能評価課性能評価G)

杉森 弘忠(総務部性能評価課性能評価G → 企画調整部企画課企画G)

■【3月の業務報告】

平成26年3月の受付件数

口依頼試験(担当:性能評価課)

依頼試験 9件(累計 147件)

設備使用 7件(累計 25件)

口施設見学(担当:企画課)

件数3件人数48名

□技術相談(担当:企画課)

件数 4件 (累計 169件)

■【構造計算適合性判定センターから】

□3月の判定業務

受付 21件(28棟)

結果通知 39件(44棟)

3月の判定依頼は、工場・倉庫など生産・物流計施設3件、住居系施設3件、 物品販売店舗等(複合施設含む)3件、事務所等5件、その他でした。

総判定日数(受付から結果通知までの期間)の平均日数は40.2日(前月比約-10日)、実判定日数(設計者の修正期間を除く実際の審査期間)の平均日数は12.5日(前月比約+1日)でした。

3月までの依頼総件数は概ね例年通りの依頼数となっていますが、前年まで増加傾向にあった状況が3月には大きく減少しています。これは北海道が判定機関の指定を複数化し、H26年1月から業務が開始されたことによるものと考えています。

総判定日数は40.2日と例年並みに戻りつつあります。長期化した依頼物件 が減少してきたこと等が考えられますが、依然として意匠設計と構造設計の相 違や計算の誤りなども散見されます。

判定センターでは更なる判定期間の短縮と適格な判定に鋭意努めてまいりますので、引き続き皆様のご協力をお願いします。

(構造判定G 渡邊)

■【編集後記】

4月から企画課にまいりました清水と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は、道総研最初の中期計画の最終年度ということで、総括の年であるとともに、次の5カ年に向けた新たな計画策定の年でもあり、新年度早々から様々な形で動き出しております。

北総研としては、これまで以上に皆様の声に耳を傾け、安心して暮らせる地域 づくりに向けた調査研究、試験評価、普及支援などに取り組んでいきますので 今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(企	曲	課	清フ	k)

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html 変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と 記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目 的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行:(地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所